

I-2-01

子育て期女性の就労と家事の相互健康影響： baseline data 3-有配偶者のGHQ12-score

永谷 照男¹⁾、日比野 稔²⁾、近藤 康明²⁾

¹⁾名古屋市立大学 大学院医学研究科 公衆衛生学、²⁾国際セントラルクリニック

目的 「働くことと健康に関する調査研究、<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/kouei.dir/moku%20sinkou.html>」は7年間の追跡から、子育て期女性の就労と家事が生活習慣や健康指標に与える影響の評価を目的とする。今回、その baseline data で有配偶女性の就労や子育てと GHQ12-score との関連を示す。

対象者 同意に基づいて資料を得た健診受診女性5,737名のうち、25～49歳の有配偶者から、「収集後の同意撤回者、主要データ欠損者、重複者、妊娠中、休職者、学生」を除いた2,718名。

GHQ12-score GHQ12質問票の12項目（各4階級評価）で上位2階級に回答の場合に1点を与え、12項目の合計点（最小～最大: 0～12）を算出。高得点がこころの健康状態が低いことを示す。今回は便宜的に、7点（95%tile）以上の158名（5.8%）を「GHQ12-score不良」とした。平均（SD）=1.90（2.36）、範囲=0～12。

就労 週労働時間（h/w）を求め、無職/≤35/35<の3群: n=832/965/921。

子育て なし/末子年齢<6/6≤の3群: n=838/698/1,182。

交絡因子 6項目、すべて群変数。1) 年齢: 5歳間隔の5群、平均（SD）=39.7（5.0）。2) BMI, kg/m²: 4分位の4群、平均（SD）=20.8（2.9）。3) 何らかの現病、無/有の2群、n=2,030/688。4) 飲酒: 週飲酒量（g alcohol/w）で、0/≤25/25<の3群、n=1,423/594/701。5) 喫煙: 非/既/現喫煙の3群、n=2,202/318/198。6) 運動: 週運動時間（min/w）で、0/≤100/100<の3群、n=1,763/534/421。

統計処理 全対象者（未就労者を含む）および就労者のみで、週労働時間とGHQ12-scoreとの年齢補正-Spearman's rを算出した。また、共分散分析で上記全交絡因子を補正した労働時間3群別、および子育て3群別にGHQ12-scoreのlsmean（SE）を求め、最後にlogistic regression analysisで上記全交絡因子を補正した「GHQ12-score不良」のodds ratio（OR）を求めた。

結果・考察 全対象者、就労者のみの双方で、労働時間とGHQ12-scoreは弱い正相関を示した（ $r=0.078, 0.090; p<.001$ for both）。労働時間3群間では、GHQ12-scoreのlsmean（SE）は2.01（0.12）、2.05（0.12）、2.31（0.11）と労働時間が長いほどGHQ12-scoreが高かった（trend $p=0.009$ ）。一方、「GHQ12-score不良」OR（95%CI）は1.00（reference）、1.02（0.68, 1.53）、1.10（0.73, 1.65）と有意ではなかった（trend $p=0.841$ ）。子育て3群間では、GHQ12-scoreのlsmean（SE）は2.19（0.11）、2.01（0.14）、2.19（0.12）と有意な関連がなく、「GHQ12-score不良」OR（95%CI）も1.00（reference）、1.10（0.69, 1.77）、1.09（0.72, 1.67）と有意ではなかった（trend $p=0.676$ ）。なお、GHQ12-scoreや「GHQ12-score不良」ORに対する労働時間と子育ての交互作用は有意ではなかった。以上より、有配偶女性のGHQ12-scoreは労働時間が長いとやや高いが、「GHQ12-score不良」を増加させる程度ではなかった。他方、子育てはGHQ12-scoreと特定の関連がなかった。今後、対象者を7年間追跡し、女性の就労や家庭要因が生活習慣や健康指標に与える中期的影響を検討する。

附 A) 名古屋市立大学大学院医学研究科倫理審査委員会の承認を得ている。B) 研究費: 三菱財団、日本健康増進財団、ヘルス・サイエンス・センター、愛知健康増進財団の助成金および文科省科研費。C) COI: none。